

幼稚園実習におけるピアノ課題曲（生活の歌）資料 ～栃木県下の私立幼稚園を中心に～

石 塚 将 之
岡 泉 志 の ふ

Abstract:

This research is aiming to clarify practical techniques of playing the piano by analyzing the task songs requested from kindergartens, where our college students did their teaching practice. Though this research the future perspectives for what instructions should be given are also concluded. In particular, the analysis of songs taught at kindergartens and collecting of songs students were asked to be able to play would be a big and detailed help of the instructions given to students before their teaching practice.

70 percents of students are the beginners of playing the piano. Under this situation, by setting the songs which are sung daily at kindergartens as the subjects of analysis, we would like to know how effectively instructors should/can teach those leveled students in order to make them play the songs requested.

キーワード：

幼稚園 教育実習 生活のうた ピアノ 栃木県

1. はじめに

保育士並びに幼稚園教諭の養成校の音楽系教員として最も頭を悩ませる問題の一つとして、ピアノ実技の指導に関し、特に実習（保育実習・幼稚園実習）時のピアノ課題のレッスンがあげられる。

本学の保育士養成課程では、1年次の11月に教育実習（幼稚園実習5日間）、2月に保育実習Ⅰ（保育所・保育園実習11日間）、2年次の6月に教育実習（幼稚園実習15日間）、8月に保育実習Ⅱ（保育園11日間）もしくは保育実習Ⅲ（施設11日間）、9月に保育実習Ⅰ（施設11日間）を実施している。今年度開講している音楽関連科目では、「音楽表現Ⅰ」、「音楽

表現Ⅱ」の演習科目と「ピアノ演奏法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ（各半期科目）」を開講している。各ピアノ演奏法では、約100名の学生に対して6人の教員が個人レッスンを行っている。本学の入学生のピアノのレベルは様々であるが、入学時点でピアノ未経験者や初心者（ここでは幼児期に1～2年間の経験も含む）が約7割を超えているという現状であり、殆どの学生がピアノの基礎技術から学ぶという状況である。現状、他校の保育士養成校でも同じ問題を抱えている。この現状で、「バイエルピアノ教則本」や「ブルグミュラー25の練習曲」といった基礎技能を習得する教材の進行も重要であるが、近々に迫った実習に対する準備も

平行して進めていかなければならない。

本学の教育実習では、例年約80園程度の幼稚園に学生を送り出している。その中には、例年学生を受け入れていただいている幼稚園もあり、学生も例年オリエンテーションにおいて実習時に使用する楽譜を戴いて来ているが、オリエンテーションから実習までの期間が短かったりする場合に、学生のピアノの能力によっては課題の曲が仕上がらずに実習を迎えてしまうという事例が多々起きてしまっている。この問題の解決策としては、通常のレッスン時に実習課題曲の準備が必要であり、そのために各幼稚園で実際に使用されている楽譜を教育実習終了後学生より提出してもらい次年度以降の学生のためにデータを収集始めた。

1年次前期には実習園が確定するので、学生の個々の能力を判断しながら、必ず使用する「生活のうた」や「季節のうた」を前もって準備してきた。当時の学生のアンケートや「生活のうた」「季節のうた」等を分析したものが先行研究¹⁾である。

2. 目的

本研究では、先行研究に基づき私立幼稚園での「生活のうた」について、栃木県、茨城県西部、群馬県東部での地域別集計を行い、栃木県内での「生活のうた」の地域別使用頻度と生活シーン別使用頻度、そして栃木県以外の幼稚園についても比較しデータ化する事を目的とした。また実習先から求められる課題への対応と学生個々への対応について考察を加えた。

3. 研究方法

(1) 調査期間・対象

本調査は、2006年～2012年にS短期大学保育士養成課程の学生から得た「教育実習先からの課題」（アンケート調査・学生からの聴き取り）と実習先から渡していただいた楽譜を対象とした。

(2) 調査項目

実習先からのピアノ課題では、どのような曲が出されたか、また、その場合に、楽譜を渡されたかどうか等、実習園の求めているものへの調査も実施した。

4. 結果と考察

(1) 地域性

本学学生の実習先は栃木県を中心に近県の埼玉県・茨城県・群馬県・福島県そして少数であるが青森県・秋田県・岩手県・東京都・静岡県・山梨県と多岐に渡っている。今回の調査結果については、例年5名程度以上の学生を実習に出している事を踏まえて、栃木・茨城・群馬の3県に限定した。尚、今回のデータは私立幼稚園に限定している。

◆栃木県内

栃木県内の私立幼稚園数は196園であり²⁾、その中で実習に出した学生に楽譜を頂けた園の数は116園である。この割合は栃木県全体の59%にあたる。この数は実際に実習にあたって楽譜の提供のない幼稚園や実習生にピアノの課題を与えない幼稚園の数を入れた場合にはもう少し高い割合になる。本学の地元という事もあり割合は高いが、地域によってばらつきも存在する。栃木県を各地域に分けた統計を参考に10の地区に分けてみた。

教育実習は学生の出身地での実習を原則として行っているため、本学保育士養成課程の出身地区と重複している。割合の高い佐野地区・

<栃木県地区別私立幼稚園数(2012)>

足利 地区	16 園
佐野 地区	12 園
栃木 地区	23 園
小山 地区	29 園
鹿沼 地区	8 園
宇都宮地区	50 園
芳賀 地区	17 園
塩谷 地区	13 園
日光 地区	9 園
那須 地区	19 園

栃木地区の両地区は本学から距離も近く地元とも言えるためこの割合の高さは理解できる。ただし、本学から比較的遠距離にある日光地区や鹿沼地区の割合の高さについて考えると、両地区は広さの割に私立幼稚園の数が比較的少数であることと、立地場所が比較的集中しているため学生が同じ幼稚園に集まりやすいためではないかと考えられる。県北の那須地区では、やはり本学から遠距離にあることと、広大な地区に那須塩原市・大田原市といった大きな市に幼稚園が比較的多数存在しているためと言える。また、実習生に対してピアノの演奏を要求しない園や譜面を用いない園が複数あることも多少なりの影響があると考えられる。宇都宮地区や小山地区での割合の少なさは両地区共に宇都宮市や小山市といった大都市を有し、幼稚園数も多いわりには本学に通う学生数が比例していないことが大きな要因である。

◆茨城県（県西地区）

茨城県出身の学生のほとんど全てが栃木県に隣接した茨城県西部地域の幼稚園で実習を

行っている。茨城県私立幼稚園連合会では2つの地域にあたり、1つが古河地区（古河市・結城市・五霞町・境町を含む地域）で私立幼稚園数は29園である。もう1つが下妻地区（下妻市・筑西市・坂東市・常総市・つくば市・桜川市・八千代町を含む地域）で、私立幼稚園数は30園ある。広大な両地域に50園の幼稚園があるが、本学学生はそのうち古河市や結城市・筑西市などJRや国道50号線の近辺地域に限られている事があり比較的特定の幼稚園に学生が集中している。

◆群馬県（東部地域）

群馬県私立幼稚園協会によると、群馬県東部地区として、太田市・桐生市・伊勢崎市・館林市・みどり市・大泉町・板倉町・玉村町に分類されているが、本学学生は太田市・館林市・桐生市・板倉町・大泉町を含んだ邑楽郡での実習が多くを占めている。本学から比較的距離の近い館林市や邑楽郡では私立に比べ公立の幼稚園が多く実習においても公立で実施される場合が多い。

<栃木県幼稚園連合会>

No.	地区名	主要市町	私立幼稚園数	楽譜のある幼稚園	割合
1	足利地区	足利市	16園	10園	63%
2	佐野地区	佐野市	12園	9園	75%
3	栃木地区	栃木市、岩船町、壬生町	23園	18園	78%
4	小山地区	小山市、野木町、下野市	26園	16園	55%
5	鹿沼地区	鹿沼市	8園	6園	75%
6	宇都宮地区	宇都宮市、上三川町	50園	24園	48%
7	芳賀地区	真岡市、芳賀町、益子町、市貝町、茂木町	17園	10園	59%
8	塩谷地区	矢板市、塩谷町、さくら市、那珂川町、那須烏山市	13園	9園	69%
9	日光地区	日光市	9園	7園	78%
10	那須地区	那須塩原市、大田原市、那須町	19園	8園	42%
			196園	116園	59%

<茨城県私立幼稚園連合会>

No.	地区名	主要市町	私立幼稚園数	楽譜のある幼稚園	割合
11	古河地区	古河市、結城市、五霞町、境町	29園	11園	38%
12	下妻地区	下妻市、筑西市、坂東市、常総市、つくば市、桜川市、八千代町	30園	9園	30%
			59園	20園	34%

<群馬県私立幼稚園協会>

No.	地区名	主要市町	私立幼稚園数	楽譜のある幼稚園	割合
13	東部地区	太田市	17園	4園	24%
		桐生市、みどり市	8園	2園	25%
		館林市、板倉町、大泉町	9園	3園	33%
		伊勢崎市、玉村町	7園	0園	0%
			41園	9園	22%

各地域別課題曲（上位10曲）

<足利地区>			<宇都宮地区>			<小山地区>		
No.	曲名	演奏数	No.	曲名	演奏数	No.	曲名	演奏数
1	おべんとう	8	1	おべんとう	18	1	おかえりのうた	14
2	おかえりのうた	8	2	おかえりのうた	15	2	おべんとう	12
3	おはよう	5	3	おはよう	13	3	おはようのうた	7
4	さよならのうた	3	4	さよならのうた	6	4	おはよう	6
5	子守唄（シューベルト）	3	5	おきよーおきよー	4	5	さよならのうた	3
6	おきよーおきよー	3	6	おかたづけ	4	6	夜があげた	1
7	仏の子供	2	7	おとうばん	3	7	しょくぜんのおいのり	1
8	ののさまに	2	8	夜があげた	2	8	おやつ	1
9	おとうばん	2	9	しょくぜんのおいのり	2	9	おひるがきました	1
10	あなたのお名前	2	10	おべんとうのうた	2	10	1・2・3のご挨拶	1

<鹿沼地区>			<佐野地区>			<塩谷地区>		
No.	曲名	演奏数	No.	曲名	演奏数	No.	曲名	演奏数
1	おべんとう	4	1	おべんとう	7	1	おべんとう	5
2	さよならのうた	2	2	さよならのうた	5	2	おかえりのうた	5
3	おはようのうた	2	3	おかえりのうた	4	3	さよならのうた	3
4	おかえりのうた	2	4	子守唄（シューベルト）	2	4	おはよう	2
5	夜があげた	1	5	おはようのうた	2	5	夜があげた	1
6	よいこのあいさつ	1	6	おはよう	2	6	なんでもたべる子	1
7	せんせいおはよう	1	7	よいこのあいさつ	1	7	知っている	1
8	子守唄（シューベルト）	1	8	ゆりかごのうた	1	8	おひるのうた	1
9	おひるがきました	1	9	おはようの歌	1	9	おはようのうた	1
10	おはよう	1	10	おはようさん	1	10	朝のうた	1

<栃木地区>			<那須地区>			<日光地区>		
No.	曲名	演奏数	No.	曲名	演奏数	No.	曲名	演奏数
1	おべんとう	12	1	黙想のうた	2	1	おはよう	6
2	おかえりのうた	10	2	ののさまに	2	2	おかえりのうた	6
3	さよならのうた	7	3	おきよーおきよー	2	3	おべんとう	5
4	おべんとうのうた	7	4	おかえりのうた	2	4	おべんとうのうた	3
5	おはよう	7	5	てんのおとうさま	1	5	ゆりかごのうた	2
6	おかたづけ	7	6	さよならのうた	1	6	小さいおてて	2
7	おはようのうた	6	7	おべんとうのうた	1	7	食前のおいのり	2
8	おはじまり	3	8	おべんとう	1	8	せんせいおはよう	1
9	おとうばん	2	9	おはようのうた	1	9	さよならのうた	1
10	1・2・3のごあいさつ	1	10	あさですあさですおはようございます	1	10	おかえりのうた	1

<芳賀地区>		
No.	曲名	演奏数
1	おべんとう	5
2	おはよう	5
3	さよならのうた	4
4	おべんとうのうた	2
5	なんでもたべる子	1
6	せんせいおはよう	1
7	きれいですか	1
8	おむねをはりましょ	1
9	おててをあらいましょ	1
10	おかえりのうた	1

(2) 栃木県内各地域の使用楽曲

前述の栃木幼稚園連合会資料での区分分けに従い各幼稚園で実際に歌われている「生活のうた」の使用園数を調べてみた。全ての幼稚園を網羅している訳ではないが、この中から比較的割合の高い地域を比較してその違いについて考察する。

◆佐野地区と栃木地区

両地区を比較すると、朝歌われているうたの違いがわかる。栃木地区では園数の割に朝

歌われるうたの種類は少ないが、佐野地区では園数に比べて朝歌われているうたの種類が多い。特に大きな相違点としては、お昼に歌われている代表的な曲として2曲挙げられ、「おべんとう」と「おべんとうのうた」の2曲である。栃木地区では両曲が同じように歌われていることに対し、佐野地区では「おべんとうのうた」がまったく歌われていない。「おべんとうのうた」が仏教系の幼稚園で歌われていることが多いのは事実だが、佐野地区に仏教系の幼稚園が全くないという訳でない。佐野地区のデータを見ても「ののさまに」や「仏の子供」「のんのののさま」といった仏教由来の曲が歌われている。

◆鹿沼地区と日光地区

日光地区は日光東照宮をはじめとして寺社仏閣が多数あり、仏教系の幼稚園が多数存在するが、キリスト教系の幼稚園も2園あり6月の聖歌である「愛をください」など学生がなかなか耳慣れをしない曲もある。①と同様、この両地区でも「おべんとう」と「おべんとうのうた」の使用度に違いが出ている。確かに日光地区は仏教系の幼稚園が多いが鹿沼地区にも多数存在する。その割には鹿沼では「おべんとうのうた」が歌われていない。また、降園時の代表的な歌として「おかえりのうた」と「さよならのうた」が挙げられるが、鹿沼地区では同程度に使用されているのに対し、日光地区では「おかえりのうた」に比べて

「さよならのうた」がかなりの少数派となっている。

(3) 生活の場面別のうたについて

幼稚園生活には1日の時間帯や活動によって生活の区切りが存在する。各々の時間帯またはその生活場面によって、用いられるうたや楽曲にはどのような傾向があるのか検討してみた。以下に、本学の調査結果（6年間）での栃木県10地区の実習時における「生活のうた」のデータを載せ考察をし、場面として、以下の6つに分けて考察する。

i. 「あさ」の時間

「あさ」に用いられるうたの種類は、「ひる」や「おかえり」の時間帯に比べて最も多いのが特徴である。はじまり会の時間帯で歌われている曲が多く、実習生に対しての部分実習用として楽譜を提供していただいているとも考えられる。実際に「あさ」のうたで代表的なものとして挙げられるものは、「おはよう」「おはようのうた」「夜があけた」「1・2・3のご挨拶」が挙げられる。ここで集計上困難な問題があったのは、「おはよう」の曲が園から渡される楽譜では「あさのうた」と記されているものが多数あったことである。同じ曲が2つの名前で出版されている可能性が高く、実習園でも「あさのうた」で呼ばれているところも多かったが今回の調査では「おはよう」に統一した。

<生活場面別>

【6つの生活シーン】

- i. 「あさ」の時間：登園時や登園後の朝の時間でうたわれる曲。(表1)
- ii. 「ひる」の時間：昼食に関係する曲。(表2)
- iii. 「おかえり」の時間：降園時の集まりや1日の園生活最後に用いられる曲。(表3)
- iv. 落ち着かせる時：主に昼食の前後に用いられることが多いが、園児たちをいったん落ち着かせるために用いる曲。(表4)
- v. 切り替えの時：落ち着かせた状態から引き戻す曲。(表5)
- vi. おかたづけの時：現活動から次の活動への展開時に用いられる曲。(表6)

「おはよう」

作詞：増子とし 作曲：本多鉄磨

「おはようのうた」

作詞：高すすむ 作曲：渡辺茂

ここで両曲の作者について少し記述していく。「おはよう」の作詞者の増子（ましこ）とし（1908 - 1997）は元東京墨田区の江東橋保育園園長でクリスチャンであった。それに対して作曲者の本多鉄磨は本名本多慈祐（1905 - 1966）天台宗福増山常楽院の第五十二世住職であり神代幼稚園（現在廃園）の初代園長であった。幼児の音楽教育に強い思いのあった両者が信仰する宗教の違いを乗り越えて楽曲を制作したことは興味深い。本多鉄磨は生涯2000曲以上の曲をつくっているが、増子としとの共作も複数存在し、代表的な曲としては「思い出のアルバム」が挙げられる。尚、現在、常楽院には「思い出のアルバム」歌碑が実存している。「おはようのうた」の作曲者の渡辺茂（1912 - 2002）は児童唱歌の作曲家として多数の楽曲を作曲し、代表作としては「たきび」「不思議なポケット」「あくしゅでこんにちは」といった一般によく知られたうたを作曲している。

《譜例①「おはよう」》

《譜例②「おはようのうた」》

(表1)

《添付資料③<資料①「朝のうた一覧」>》

No.	曲名	歌われている園数	備考
1	おはよう	47	譜例①
2	おはようのうた	22	譜例②
3	夜があげた	6	
4	1・2・3のご挨拶	5	
5	せんせいおはよう	3	
6	おはじまり	3	
7	あさのうた(※)	3	
8	よいこのあいさつ	2	
9	おはようの歌	1	
10	おはようさん	1	
11	うるわしき朝も	1	
12	あさですおはようございます	1	
13	あかるいあさ	1	

ii. 「ひる」の時間

「ひる」に歌われるうたとしては、「おべんとう」（作詞 天野蝶、作曲 一宮道子）が最も多く使われている。「生活のうた」全体をみてもこの歌が数ある歌の中で幼稚園では最も歌われている楽曲ではないかと思われる。「おべんとうのうた」を歌っている園でも「おべんとう」を併用して歌っている園が多数あり、集団生活の中でまたは国民として最初教育の場で共通認識される曲として挙げられるであろう。

作詞の天野蝶（1891 - 1979）は日本に初めて「リトミック」の概念を持ち込んだ人物であり「天野式リトミック」は現在でも多く

の幼稚園や保育園で実践されているメソードの一つである。作曲の一宮道子（1897 - 1970）は元日本女子大学の教授であり日本の音楽教育の先駆者として知られている。

「おべんとうのうた」は作詞三橋あきら、作曲が本多鉄磨である。前述の「おはよう」でも紹介したが、本職は天台宗常楽院の住職である。このためか、「おべんとうのうた」は仏教系の幼稚園で多く歌われている。歌詞の中に「ののさま」という仏教を連想させる歌詞があるためか、仏教系以外の幼稚園では歌われていない。「ののさま」がお釈迦様を意味することもあるが、実際は尊いものを「のんのさま」＝「ののさま」とも伝えられている。しかし一般には「ののさま（のんのさま）」＝お釈迦様や仏様といった仏教を連想させるイメージが定着してしまい、仏教系の幼稚園以外では歌われていないのではないかと仏教系幼稚園や団体から依頼を受けて作曲したのではない限り、本多鉄磨が仏教系の園を対象として作ったとは考えにくい。「おはよう」の曲や「思い出のアルバム」では増子としというクリスチャンと共作をした事がそれを裏付けているものとする。

《譜例③「おべんとう」》

《譜例④「おべんとうのうた」》

(表 2)

《添付資料③<資料②「お昼のうた一覧」>》

No.	曲名	歌われている園数	備考
1	おべんとう	77	譜例③
2	おべんとうのうた	15	譜例④
3	食前のお祈り	5	
4	なんでもたべる子	3	
5	おひるのうた	1	
6	おひるがきました	1	

iii. 「おかえり」の時間

おかえりの時に歌われているうたは、「おかえりのうた」と「さよならのうた」が最もポピュラーな曲と言える。「おかえりのうた」の作詞作曲は「おべんとう」と同じ天野蝶と一宮道子であるが、「さよならのうた」も「おはようのうた」の作者と同じで高すすむと渡辺茂である。また、「おかえりのうた」「さよならのうた」は勿論それぞれの幼稚園単位で歌われているが、例えば年少・年中クラスは「さよならのうた」、年長児のクラスは「おかえりのうた」と学年によって歌をわけている幼稚園もある。また「さよならのうた」の後半部分の「マーチ」から「おかえりのうた」

に繋げて2曲歌う幼稚園も少なくない。

ここまで述べると、幼稚園での生活のうたに関して、今まで出てきた6名の作詞作曲者で、かなりの割合を占めていることがわかる。作詞家として「増子とし」「天野蝶」「高すすむ」作曲家として「本多鉄磨」「一宮道子」「渡辺茂」である。この6人の作風が私たち日本人の幼児教育に少なからずの影響を与えていることは幼児音楽の世界にとっていなめないものと言える。

(表3)

《添付資料③》<資料③>「おかえりのうた一覧」

No.	曲名	歌われている園数	備考
1	おかえりのうた	67	
2	さよならのうた	35	
3	おかえりのうた(※)	2	

※「おかえりのうた」と同名だが、別の楽曲

iv. 「落ち着かせる」時

主に昼食の前後に園児たちを落ち着かせるために用いている。ここで注目すべき点は、幼稚園ごとに決まった楽曲を用いるというよりは、各クラス担任や学年の主任に選曲を委ねている園が多く見受けられる。中には宗教色の強い楽曲を用いている園もあるが、仏教系の幼稚園もキリスト教系の幼稚園も同じような曲を選んでいく傾向がある。「ゆりかごのうた」「シューベルトの子守唄」「こもりうた」「人形の夢と目覚め」等、クラス担任の意見や好みが反映されていることも多い。歌ったりするのではなく、ゆったりとした曲を流すことによって子ども達を落ち着かせることが主目的となっている為だと考えられる。保育園と違って、幼稚園では基本的に午睡の時間はない。そのためどうしてもこのような曲がという疑問が浮かぶが、時間単位で休むというのではなく、落ち着いた「間」をとることによって、次の保育や活動への区切りとしている。

(表4)

《添付資料③》<資料④>「落ち着かせるうた(生活面)」

No.	曲名	歌われている園数	備考
1	ゆりかごのうた	15	
2	黙想の曲ⅠⅡ	11	
3	子守唄(シューベルト)	10	
4	子守唄	6	
5	人形の夢と目覚め	5	
6	おねむりのうた	3	

v. 「切り替え」の時

安静の状態からまた活動に切り替えるための楽曲であり、歌詞はついているが比較的簡単に弾ける曲でテンポをあげて演奏している。「おきよーおきよー」は「ちょうちょ」のメロディに歌詞を変えて作曲されたものであるが、いつごろから使われているのか、また歌詞を考えた人物も不明である。

例)：「おきよー、おきよー。〇〇組さんのおともだちー」

(表5)

《添付資料③》<資料⑤>「落ち着かせた後のきりかえ(生活面)」

No.	曲名	歌われている園数	備考
1	おきよーおきよー	22	※
2	おきましよう	1	

※「ちょうちょ」のメロディに歌詞を変えたもの

(表6)

《添付資料③》<資料⑥>「おかたづけに使われる曲(生活面)」

No.	曲名	歌われている園数	備考
1	おかたづけ	11	
2	おとうぼん	8	
3	お当番さん	1	
4	お当番さんでてらっしゃい	1	

vi. 「おかたづけ」の時

何かを片付けるという活動は幼稚園のみならず幼児の生活活動に欠かせない習慣である。この活動を促す曲としては、「おかたづけ」と「おとうぼん」が最もよく用いられている。

「おかたづけ」は作詞作曲共に不明だが、皆で使用したものをみんなで片付けようという歌詞が集団生活の中で活かされている。「おとうばん」は作詞三橋あきら、作曲本多鉄磨であり、作詞の三橋あきは本多鉄磨の作詞家名とも言われているが、詳細は不明である。幼児曲や唱歌を多数手がけているので自ら作詞もしていた可能性は否定できない。

《添付資料④》＜生活のうた実施園 地域比較＞

No.	曲名	総数	栃木県	静岡県 (※1)	埼玉県 (※2)
1	おべんとう	210	77	62	71
2	おかえりのうた	159	67	35	57
3	おはよう	97	47	30	20 (※3)
4	おはようのうた	82	22	21	39 (※3)
5	さよならのうた	81	35	17	29
6	おきよーおきよー	27	22	0	5
7	おかたづけ	16	11	3	2
8	ゆりかごのうた	15	15	0	0
9	おべんとうのうた	15	15	0 (※4)	0 (※4)
10	黙想の曲ⅠⅡ	11	11	0 (※4)	0 (※4)
11	おとうばん	11	8	3	0
12	夜があげた	10	6	0	4
13	子守唄(シューベルト)	10	10	0	0
14	おねむりのうた	9	3	1	5
15	なんでもたべる子	8	3	0	5
16	子守唄	8	6	2	0
17	よいこのあいさつ	7	2	0	5
18	あさのうた	6	3	1	2
19	人形の夢と目覚め	5	5	0	0
20	お当番さん	2	1	0	1

- ※1) 近県を含む
- ※2) 近県(群馬・栃木・茨城・新潟など)を含む
- ※3) 筆者注としておはようとおはようのうたの学生の認識が怪しいとの記述あり
- ※4) 宗教系のうたとして判断している可能性がある。

(4) 「生活のうた」での他養成校との比較

考察に先立ち、他のデータとの比較を行って見た。データの採取方法が違うため横並びに並べる事は難しいが、一つの参考資料として検討することは可能だと考える。静岡県にある常葉学園短期大学の河原田潤が2008年に同短期大学保育科学生を対象にアンケートを行い、保育現場で取り上げられる「子どものうた」と「日常のうた」で比較対象になる

ものを抜粋した。³⁾ また、埼玉県にある埼玉純真短期大学の小澤和恵の「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察」より2008年の調査結果である「生活のうた」を取り上げた。⁴⁾ 河原田と小澤の調査研究と本学の調査は必ずしも一致していないが、両氏の研究は学生アンケートを中心に幼稚園のみならず保育所・保育園でのデータも集め、季節のうたに関しても言及している。川原田氏によれば、保育園と幼稚園での歌の総数比較から子どもの「歌」を盛り込んでカリキュラム編成している幼稚園が圧倒的に多いと示している。また、園歌を歌っている幼稚園が多いのが、生活のうたに続いて圧倒的に多いことから、やはり、日常的に歌われているうたが実習でも求められていることがわかる。小澤の調査でも、生活のうたでは、朝のうたが過半数を占め、「おべんとう」は7割以上、「おかえりのうた」「さよならのうた」では、どちらも歌っている園が多かったということであり、この点を明らかにしている。実際に、2004年から2006年の本学の調査でも明らかにしていることから、他の養成校と変わらず、幼稚園から求められている課題の大きな一つと考えられる。

(5) 実習先から求められる課題の対応

前述したように「生活のうた」は多く歌われていることが明らかになっていることから、本学では数年前から「日常のうた」を全学生が取り組んできたが、実習先からの課題では、園歌や仏教系のうた、学生が知らない曲も少なくない。また、園の方針や特色が変わることも殆どないことから、園で歌う曲も大幅に変わることも少なく、実習先別に学生からの情報や園からいただいた楽譜を参考に、実習園別によるより正確な曲の情報で対応することにより、少なくとも早い時期からの個々への指導ができると考える。全体での授業で取り入れられない曲も多数あり、学生の

実習先からの課題を個々にピアノの個人レッスンの授業に取り入れて、個々への対応をしてきた。

各実習先別の情報は学生に伝え、且つ、教育実習（観察5日間）で歌っていた曲の情報収集をさせることと次年度に実施する総合実習で求められることへの園へのお伺いをするよう以下の指導（指導例）をすることで、本人の意欲とこれからの心構えをさせることも必要であると考えている。

指導例：

- ・生活のうた以外を歌っていたら年齢別に把握する
- ・園独自の歌であれば、楽譜を頂けるか確認する
- ・季節のうたであれば月間で決まっているかどうか
- ・ピアノが苦手なので、来年弾く曲は早いうちから練習したいことをお伝えする

また渡された楽譜が、そのままでは使えないものや指導しにくいといったものがある。手書きの楽譜で拍子記号が実際に演奏してみると全く異なっているものや、音符の記入ミスと思われるもの、多年に亘ってコピーされた楽譜にいたっては音符を判別することですら難しいものもある。

このような楽譜については楽譜作成ソフトを使用して新たに楽譜を作って学生に配布する場合がある。もちろんオリジナルとしての楽譜を尊重するが、必要によってはコードを変更し、伴奏形を変えることも多々ある。

伴奏形の変更については学生のレベルによって簡易楽譜を用いるケースがあるが、大半の学生はオリジナルの譜面通りに指導している。伴奏形の簡易化はコードを理解することによってある程度解消される問題だが、このコードの理解ができる学生、特に楽譜通りではなく自分で伴奏形を作るという

作業自体、ピアノ経験がある学生でないと難しい。そういった学生は逆にオリジナルのまま演奏することが可能であり、このギャップが指導上において現在まで解消できていない点である。

(6) 実習先別による個々への指導と問題点

これまで、実習先別に収集した楽譜を基に、これからも学生から聞き取り調査等を実施し、学生個人ごとの指導案を作り、マンツーマンのレッスン形式の長所を活かしていきたいところである。問題点としては時間不足が挙げられる、一人あたりのレッスン時間が限られている中で、学生によって時間を延ばしたり短くしたりすることは困難である。学生によっては幼稚園から20曲の課題曲を渡される学生もいれば全く曲を渡されない場合もある。この場合、授業としてのレッスン時間に於いて学生の平等性をどうやって保つことができるのか現状抱えている問題である。

5. まとめ

先行研究より6年を経て実習園での楽譜も以前に比べかなりの数が集まってきた。勿論、まだ全てを揃えた段階ではないが、少しずつ学生の指導に活かすことができている。実習先で求められているのは、これからの就職先にも繋がることであり、就職した先が実習園でない場合でもこれまでに収集された楽譜や情報は、就職する前での採用試験や就職後にも活かされていくことである。

本学に入学し、1年足らずの時間でピアノ初心者に「生活のうた」上位20曲を演奏させることは可能なのだろうか。実習現場ではこの他に「季節のうた」も弾かなければならない。本学で集めている楽譜は、実際に教育実習で学生が演奏（弾き歌い、または伴奏）した楽譜であるが、1年間という時間を考えると、この指導法を更に充実して個々の学生への対応が必要であることがわかる。これま

でに挙げた「日常のうた」を1年次の授業で取り入れているが、未経験者や初心者（7割の一部）の学生にはなかなか難しいのが現状である。

「ピアノの力はそれほど重要視していないのではないか」という意見もあるが、現実問題として、先に述べたように入学から1年後には実習先の幼稚園で子どもたちの前で先生として弾くことになること、就職試験時には必ずといっていい程ピアノの実技を求められる園も存在すること、就職後にクラスを持った時にさらに曲数を増やさなければならないことである。こういった問題を抱えた上で、養成校の音楽教員として学生が少しでも不安を抱えないよう、実習に臨み易いように、幼稚園別のデータを収集している。今後もデータ収集は勿論のこと、このデータを活かした個人対応（個人レッスン）の充実を図っていきたい。

引用文献

- 1) 関根志のぶ・石塚将之「本学児童福祉専攻学生の教育実習時におけるピアノ課題について」佐野短期大学研究紀要 17号, pp.185 -191, 2006.
- 2) 栃木県幼稚園連合会より 2012.
- 3) 河原田潤「幼児保育現場で取り上げられる「子どもの歌」と考察2 -教育実習（幼稚園）アンケートによる幼児音楽について -常葉学園短期大学平成20年度研究紀要 pp. 49-57
- 4) 小澤和恵「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察」-「生活の歌」と「季節の歌」について -埼玉純真短期大学研究論文集第2号 pp. 37-47